

さいたま市総合振興計画審議会第1部会（第2回）の主な意見について

	項目 1	項目 2	意見内容	対応案	
将来都市構造	全体		国土交通省が示している「ウォークブルシティ」の要素を取り入れてみてはどうか 他都市と競うという視点が良かった方がよい	文言を修正する（目指す方向性で既に要素は入っている）ウォークブルシティの概念の溶け込ませを検討 他都市との比較（競う）という視点については、重点戦略の中で示すことを予定している。	
	3 将来都市構造を構成する要素 (1) 拠点	① 都心	大宮・新都心と浦和の特徴をそれぞれ記載した方がよい	計画書レベルの書きぶりで、大宮・新都心、浦和、それぞれの特徴を記載し、東日本の対流拠点という言葉は、「都心」の中ではなく「大宮」の特徴を記載していく中で使用していくことに修正する。	
		④ 地域活動拠点	区役所周辺が地域活動拠点は違和感がある。市民が区役所に行くことはほとんどないため、図書館、コミセンに変えるべき。	区役所周辺については、区役所における地域活動支援のほか、区役所との併設でコミュニティセンターや図書館が設置されるなど、地域における市民活動に必要な文化・交流機能を担う施設が集積し、また一定の交通環境が整っていることから、引き続き、地域活動拠点と位置付ける。（文案にその趣旨を盛り込む）	
		⑤ 産業集積拠点	従来型の2次産業だけでよいのか。横浜、神戸のようにクリエイティブ産業の集積は考えなくてよいのか。 自然部分を侵食しないように表現するべき	クリエイティブ産業等については、都心や副都心の中に多く集積されることも想定され、都心・副都心以外でまとまった用地が必要となる製造業や流通業を例示したもの。（「主とする」を「など」に置き換えるなど、表現を工夫することを検討） 将来都市構造の水と緑ネットワークの骨格などにおいて、緑の維持・保全を原則としているので、改めての記載はしない。	
	将来都市構造のイメージ図		色が多すぎる 2, 3色にして、濃淡を使って表現した方がよい 大宮・新都心周辺地区⇒南北軸と東西軸の交点とかぶらなくてもよい 各副都心地区⇒円の大きさの違いに意味はあるか 見沼田圃⇒もっと南北に突き抜けるように記載した方がよい	意見を踏まえて修正 意見を踏まえて修正	
			対流拠点という言葉は具体的なイメージができないので、複数のレイヤーを重ね合わせて表現できないか。また上信越・北陸、東北・北海道より手前の北関東を記載すべき	意見を踏まえて修正	
			多様な主体が「参画」するのではなく、「協働」と記載した方がよい 公共施設の維持管理といった都市施設マネジメントについては記載しなくてよい 成熟した地域から取り組みを始めると記載した方がよい 「実験を許すまち」などの書きぶりも必要	意見を踏まえて修正 記載する方向で検討 記載する方向で検討 記載する方向で検討	
	重点戦略	全体		戦略が総花的で、戦略のイメージがわからない。ニューヨークを例にあげると、課題2・5を優先して取組んだ後に、課題3・4に取組んでいる。さいたま市もどの課題から優先的に取組んでいくのか、ストーリー性をもって考えるべき アッパーミドルなど、ターゲット対象を明確にするとわかりやすくなる さいたま市は「自然と調和した都市」が最も魅力的と言え、「オンオフ」と言ったデュアルライフを楽しめるストーリーを作る等、市民にわかりやすい内容にする工夫が必要 各テーマごとに内容を見ると理解できるが、全体としてどういう戦略か理解できない 将来都市構造（ハード+ソフト）と重点戦略の関係性も考えるべき 観光資源のアピールをするべき 現行の総合振興計画の重点戦略がうまく機能していないなら見直しをする必要がある。かなり網羅的なので選択と集中が必要。 さいたま市の子育て世代は収入があるといなくなる。「働いて住む」「通勤しなくても働ける」の視点は入れなくてよい	突出した課題がなく、優先順位をつけるのは難しいが、各課題に対応する施策を重点戦略として優先的に取組む。 重点戦略の各テーマごとにターゲットは想定できる。重点戦略全体としてはSDGsの「誰一人取り残さない」という観点から、ターゲット設定はしない。 今後、ワークショップ等を通じて、市民にわかりやすいストーリー等を作成していく。 意見のとおり整理した資料を作成した。 将来都市構造は、施策全体や重点戦略を考える上での、都市空間の形成で求められる視点や、今後の課題を示したものである。 魅力5の観光資源に関する施策で対応する。 重点ポイントに関連性の強い施策のみを重点戦略に位置づけ、選択と集中を実行する。 課題2の施策で対応する。
		魅力1 環境	伸ばしたい強み	「スマートシティ」という言葉は、環境の分野だけではなくICTを含めて幅広く捉える必要があるのではないか	意見を踏まえて「脱炭素社会に向けた先駆的な技術やサービスの展開」に修正
		魅力2 健康	伸ばしたい強み	「健康」は、現在若い人が多いので魅力だが、今後高齢化が進行すると課題になる	市民の健康意識の高さを強みとしている。
重点ポイント			生活習慣だけでなく、住環境、ライフスタイル、ライフステージを意識して、広範囲に捉えるべき 単に健康づくりでなく、健康に加えて歩いて楽しめるといような部局横断的な要素があるとよい	選択と集中の観点から、伸ばしたい強みに関連の強い施策のみを重点戦略に位置付ける。 意見を踏まえて「歩くことを中心に楽しく続ける健康づくり」を追加	
魅力4 教育		重点ポイント	高齢化が進行すれば、ターゲットが子どもから高齢者になってきて、老人たちがチャレンジできるようになるための生涯学習は考えなくてよい	選択と集中の観点から、伸ばしたい強みに関連の強い施策のみを重点戦略に位置付ける。	
課題4 地球温暖化		重点ポイント	「スマートシティ」という言葉は、環境の分野だけではなくICTを含めて幅広く捉える必要があるのではないか	意見を踏まえて「脱炭素社会に向けた先駆的な技術やサービスの展開」に修正	